さっぽろ
SAPPORO

ニュースのお知らせは
〒060-0004 札幌市中央区北4条西19丁目
北海道建設新聞社
編集局へ
TEL(011)611-6315　FAX640-2625

南1線排水移設
ひまわり通拡幅関連

北区拓北のひまわり通拡幅に備えて南1線排水を移設する市建設局下水道河川部は、初弾となる延長158㍍の護岸整備を8月下旬にも事後審査型制限付き一般競争で公告する予定だ。全体の整備延長は約790㍍で、総事業費には約5億円を見込んでいる。

全体の整備完了は早くて15年度、遅くとも16年度までを予定。14年度は中間部を北海道技術コンサルタント、上流側をユニオンコンサルタントでそれぞれ実施設計を進めている。

初弾 今月下旬公告へ
市下水道河川部

ひまわり通は、北区拓北の1条3丁目から拓北公園入り口に近い5条4丁目まで延長約1390㍍、幅員18㍍で計画されている。このうち公園側470㍍は幅員不足のため、2015年度から拡幅する予定だ。

現状の南1線排水は、この区間のひまわり通北側に隣接して西進し、丸美第1排水を経てペケレット沼に流入しているが、移設に当たっては河床勾配を逆にし、篠路拓北川へ流す。

基本的にはPC柵渠による幅約2㍍の水路を整備していくことになるが、部分的には函渠の採用も計画している。

14年度は下流となる東側から、PC柵渠98㍍と函渠60㍍を施工。下流部分の設計は帝国設計が担当した。

壁面アート製作に協力
札幌タイル煉瓦工事組合 50周年記念事業で

近隣の児童生徒や市民らが作品を完成させた

札幌タイル煉瓦工事組合は、7月27日―10日に札幌市が取り組んだ白石サイクリングロードトンネル壁面へのモザイクタイルアート作りに協力し、資材提供やタイル張りの指導を担った。

市は2005年度からタイルアート作製を実施しているが、今回は7月19日に開幕した札幌国際芸術祭の連携事業と、近隣にある東札幌小の開校50周年記念事業も兼ねて計画。同組合は昨年に設立50周年を迎え、記念事業としてボランティアの機会を探っていたことから、協力を申し出た。

対象は、白石区東札幌1条4丁目の東札幌1号線トンネル。東札幌小児童の図案を踏まえ、彫刻家でアートディレクターの原田ミドーさんがデザインを担当した。タイルは北海道タイル協会からも提供を受けた。

作業には、東札幌や日章中の児童生徒、近隣住民らが参加。出来上がりをイメージしながら細かく砕いたタイルを一つ一つ丁寧に張り、「都市と自然」をテーマに森や動植物などを表現した作品を仕上げた。

指導に当たった佐藤肇組合長は「子どもたちが楽しそうに取り組んでいたのが印象的。思い出に残るだけではなく、落書き防止にも効果があると聞いているので、今後も機会があれば協力したい」と話していた。

都心に外国企業を
地域戦略策定 案内表示など整備支援
市市民まちづくり局

市市民まちづくり局は、急速な市場縮小への打開策として、札幌都心地域に外国から企業や優秀な人材を呼び込むための地域戦略を策定した。外国語った整備を支援していく。

地域戦略に基づいて都市開発、国際的ビジネス環境改善、シティセールスを盛り込んだ整備計画に対し、国がハード・ソフト支援事業」として採択を受け取り組むもの。

外国語情報発信や外国語対応のコンシェルジュデスク設置といったソフト事業と、公共空間での外国語情報板設置などのハード事業が対象。

地域戦略では、ロードマップを提示。2017年度までの短期目標としては、関係機関との連携を強化して外国企業の誘致・受け入れ体制を構築するほか、在住外国人のニーズを踏まえた生活・医療・教育支援を強化。民間投資による国際水準の業務施設整備や、エネルギーネットワーク構築などの支援を考えている。

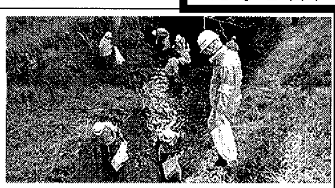
各種事業は、経済局産業振興部や総務局国際部が中心となって展開。経済局は、市の誘致に関する補助制度を活用して新規立地した企業数を、12年度末の80社（うち外資系4社）から、22年度までに175社（10社）へと引き上げることを目標に掲げた。

創成川で河床清掃奉仕を展開
北央道路工業

北央道路工業（本社・東区）は9日、社員12人で創成川の河床を清掃した＝写真。

近年、創成川ではヤマメなどがすめるきれいな環境にしようと、企業や地域町内会、各ボランティア団体らが各種美化活動を展開。近隣に社屋を構える同社も2012年から協力している。

指揮を執る畠山一昭札幌営業所長は「河床は急に深くなる箇所があるので、けがや事故がないように」と注意。



オレンジ色の社名入りジャンパーに胴付きゴム長靴姿の澤口二朗社長らが、午前9時から約2時間かけて作業した。

北8条―北14条間700mで弁当殻、空き缶、ビニール・金物類、紙くずなど40㍑のごみ袋で20袋分を拾い集めた。

来月見学会 貴重な貯留管内部公開
16日から先着順で受け付け
市下水道河川部

豊平川雨水貯留管の内部（下水道河川部提供）

市建設局下水道河川部は9月20日、2015年度に運用開始する豊平川雨水貯留管の見学会を開く。内部を見ることができる貴重な機会で、16日から参加者を募る。午前と午後の2回に分けて実施する予定。いずれも先着40人で締め切る。

合流式下水道の汚濁水放流対策と浸水対策を兼ね、大雨などの際、雨水を一時的に貯留することを目的として整備したもの。

11年11月から、白石区内の菊水元町8条3丁目にある豊平川水再生プラザと北郷5条7丁目にある豊平川中継ポンプ場まで約1・9㌔をシールドマシンで掘進。内径は4・25㍍、貯留容量は2万4000立方㍍に及ぶ。

見学会では、貯留管内往復約4㌔をウオーキングする。

時間は午前の部が9―12時、午後の部が2―5時まで。参加者は市役所本庁舎に集合し、バスで現地へ移動する。参加者には懐中電灯、軍手、歩きやすい靴、貯留管内にサインするためのサインペンなどの準備を求める。ヘルメットは同局で用意する。参加は無料。

希望者は16日午前8時から、市コールセンターで受け付ける。期限は9月11日午後9時までとしているが、先着順のため早めの申し込みが必要だ。

市コールセンターは電話(222)4894、FAX(221)4894のほか、電子メール（info4894@city.sapporo.jp）でも受け付ける。

建築申請 札幌市内
指定確認検査機関分含む
（①設計者②施工者）

大型物件

中央区
◆法人
▽ループ（北8条東19丁目2の10）5RC881共住新(8戸)、宮の森3条11丁目26①エートランスデザインワークス②ステラコンストラクト

豊平区
◆法人
▽医療法人資生会（千歳市桂木1丁目5の6）3RC4557介護老人保健施設新、月寒西1条11丁目443の32①創建社②玉川組

住宅その他

中央区
◆法人
▽RCテクノ（美園12条7丁目1の15）3RC135住新、南25条西13丁目362の114①自社②同

北区
◆法人
▽サンエイ設計（南5条西24丁目3の5）2W111住新、太平2条4丁目16の139①自社②同

東区
◆法人
▽アシスト企画（新川5条16丁目6の5）2棟×2W98住新、北23条東1丁目304の132①自社②同

白石区
◆法人
▽グランホーム（大通西5丁目1の1）3RC141住新、菊水1条4丁目47の6①日本グランデ

豊平区
◆個人
▽豊平3条9丁目4の5＝2W91店舗併住新①イシカワ②同

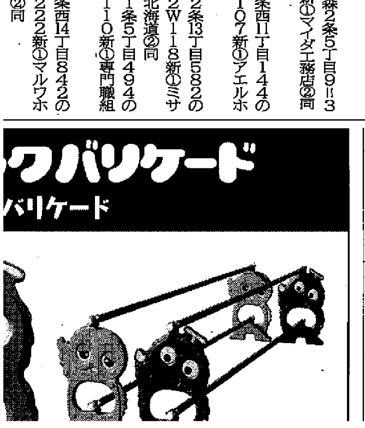
清田区
◆個人
▽北野4条5丁目353の12＝S306店舗新①大和リース②同

南区
◆法人
▽宗教法人日本基督教団真駒内教会（真駒内泉町2丁目1の6）2W384教会新、同①アトリエブンク②クワザワ工業

戸建て

中央区
▽宮の森1条2丁目742の24＝2W93新①スウェーデンハウス②同
▽南20条西14丁目1595の19＝3W121新①住友不動産②同
▽宮の森2条5丁目9＝3W139新①マイダ工務店②同

北区
▽北34条西11丁目144の79＝2W107新①アエルホーム②同
▽新川2条13丁目582の110＝2W118新①ミサワホーム北海道②同
▽新川1条5丁目494の17＝3W110新①専門職組合②同
▽北28条西14丁目842の6＝3W222新①マルワホーム企画②同

ワバリケード
バリケード


TM式鉄筋コンクリート高圧管

とにかく掘付が早い
ø300の管なら65m/日施工
ø800の管でも50m/日施工
■北海道開発局「標準設計図集」（横断管渠工の管参考1に掲載）

各企業等の社会貢献

葵建設、小針土建、道東建設工業

釧路湿原の遊歩道補修

観光客から感謝の声も

【釧路発】葵建設㈱（釧路市、山中博社長）、小針土建㈱（中標津、小針弘社長）、道東建設工業㈱（厚岸、高畠一雄社長）の三社は八日、地域貢献の一環として釧路町内の遊歩道の補修を行った。十二人が参加。釧路湿原駅から細岡展望台に通じる延長二百㍍の区間で傷んだ丸太を撤去し、新たな丸太を設置した＝写真＝。

釧路町上別保地区で釧路開建発注の工事を行っている三社で構成する調整部会「上別保部会」の活動として行ったもの。細岡展望台に通じる遊歩道が傷んでいるとの地元の声を聞き、釧路町に修繕を申し出た。

当日は午前八時から十二人が参加。釧路湿原駅から細岡展望台に通じる延長四百㍍のうち二百㍍の区間を対象に補修作業を開始した。

釧路湿原駅から徒歩で丸太や杭、作業道具を運搬。老朽化して傷んだ丸太と杭を撤去し、新たな杭を打ち込んだあと、新たな丸太を設置した。午後四時に作業は終了。葵建設の馬場秀和氏は「作業中に観光客からありがとうと声かけられる場面もあり、やって良かった」と話していた。

遊佐組が清掃ボランティア

道路環境美化に汗流す

池田大橋でごみ拾い・除草作業

【帯広発】㈱遊佐組（池田、遊佐隆社長）は八日、地域貢献の一環として、帯広浦幌線池田大橋の歩道の除草や清掃活動を行った＝写真＝。遊佐社長をはじめ社員三十人が参加し、小雨が降る中、鎌やスコップなどを片手に街の美化活動に汗を流した。

池田大橋は、池田町市街地への出入り口であり、特に夏の観光シーズンやお盆には多くの観光客や帰省客が通行する。また、夏祭りの花火大会では池田大橋の歩道が格好の見学場所にもなっている。

一方で、夏場に入ると、池田大橋の上下流側の歩道に生えた雑草の生育が早く、見苦しさを感じさせる。同社では道路環境の美化のため、池田大橋の清掃活動等を行っており、五年目となる。

この日は、遊佐社長、遊佐隆夫副社長や社員ら三十人が参加。小雨が降る中、鎌やスコップ、ほうきを片手に街の美化活動に取り組んだ。約二時間かけて、草や土、空き缶、ペットボトルなどを拾い集め、軽トラック二台分を回収した。

遊佐社長は「池田大橋を気持ち良く通行してもらえればと思い、作業に当たった」と話していた。

山内組がインターンシップ受け入れ

調査・測量作業など体験

高校生が建設現場で実習

【帯広発】㈱山内組（更別、山内信男社長）は七月二十八日から八月二日までの六日間、社会貢献の一環として、帯広農業高校と帯広工業高校の生徒二人を受け入れ、インターンシップ（就業体験）を実施した。帯広建管発注の現場で、施工前の調査や安全表示板の設置などを体験した。

各高校から現場実習の受け入れ要請があり、今回、インターンシップが実現。帯広農業高校農業土木工学科の三年生と帯広工業高校環境土木科の三年生計二人が参加した。

実習の現場となったのは、帯広建管発注の「猿別川改修サッチャルベツ川地区」。工期が七月二十五日から十二月二十二日までとなっていることから、施工前の調査や測量、安全表示板の設置などを行った＝写真＝。

杉本鉄也現場代理人は「二人とも礼儀正しく、元気良く実習をこなしてくれた。若い力に刺激を受けた」と話していた。

聖太建設が草刈りボランティア

地域の景観美化に一役

幹線用水路周辺の住宅地で

【網走発】聖太建設㈱（網走、大沼剛社長）は十一日、美幌町美禽を流れる西幹線用水路で草刈りボランティアを実施した。住宅地を流れる水路周辺の用地に生い茂った雑草をきれいに除去した＝写真＝。

西幹線頭首工を起点とする西幹線用水路は、美幌町の水田を支える重要な水路となっている。

同社では「地域のために何か貢献できないか」と、水路を管理する水土里ネット網走川に打診。水路のうち、住宅地を流れる約二百㍍区間の両側用地で草刈りボランティアを企画した。平成二十二年から続く取組も、ことしで五年目を迎えた。

当日は早朝から職員五人が出動。うっそうと生い茂った雑草をきれいに刈り取り、地域の景観美化に一役買った。同社では「来年度以降も続けたい」と話している。

LED蛍光管を寄贈

手塚組とナラサキライン

浦河東部小に　交換作業も

【浦河発】㈱手塚組（浦河、手塚純一社長）とナラサキライン㈱（むかわ、大野一郎社長）は七月二十九日、浦河町立東部小学校にLED蛍光管を寄贈し、教室の照明をLED型へ交換する作業を行った。

両社は、室蘭開建発注の国道維持や区画線設置を浦河町内で施工しており、同校が現場と隣接しているため地域貢献活動として実施した。

教育機関でのLED照明化による省エネ効果と、子どもたちの環境へ対する興味を引き出すきっかけづくりを目的として行っている取組で、ことしで三年目となる。

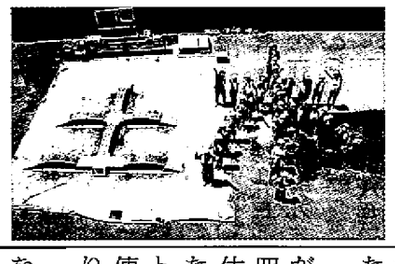
この日、五人の作業員が駆けつけ、手塚組が六年生の教室、ナラサキラインが五年生の教室を二灯式六基、一灯式一基をそれぞれ交換＝写真＝。また、校舎前の旗ポールも劣化していたことから併せてことから併せて補修作業も行った。

こうした継続的に行われている貢献活動に対し、翌三十日には、同校より感謝状が授与された。

手塚組が様似小で出前講座

煉瓦と砂使い橋づくり

「アーチ橋の進歩」を実体験



㈱手塚組（浦河、手塚純一社長）は七月二十四日、様似町立様似小学校でこと し三度目となる出前講座「アーチ橋の進歩」を実施した。小学四年生を対象に国語の教科書で取り上げられている「アーチ橋の進歩」を題材に子どもたちの仕組について説明。子どもたち全員が軍手とヘルメットを装備し、煉瓦や砂を使ってアーチ橋づくりに取り組んだ＝写真＝。

「土木」の「土」の文字を模して作られた橋が完成すると、子どもたちは思い思いに橋を渡り、自分たちの作った橋の完成度に「すごい!!」と歓声を上げ、ものづくりの達成感を味わった。

この日は、同社社員八人が講師として同校を訪れ、四年生三十人に橋の種類や土木への理解と関心を深める体験の場となった。

一般国道三三六号浦河町浦河道路維持除雪ほか一連工事を受注している同社では、地域の子どもたちに土木に触れて親しんでもらおうと様々な取組を行っている。三度目の開催となる出前講座は、同社の所在地である浦河町と隣接する様似町で実施。夏休みを前に、一学期の授業の復習と理解を深めるため、様似町教育委員会を通し同校が依頼したもの。

河床から投棄ごみ一掃

北央道路工業がボランティア

創成川と周辺緑地帯を清掃

魚の棲めるきれいな川を目指し、北央道路工業㈱（札幌、澤口一朗社長）は九日、札幌市の中心を南北に流れる創成川で清掃ボランティアを実施した。本社および札幌営業所の社員ら十二人が河川内や周辺のごみを拾い集めた＝写真＝。

創成川の近隣に社屋を構えている同社。「地元地域の環境整備に少しでもお役に立ちたい」と二十四年から実施している。

三年目のことしは、澤口社長をはじめ十二人が参加。本社社屋に程近い北八条から北十四条環状通まで、約七百㍍区間の河床と緑地帯を対象に活動を展開した。

揃いのオレンジ色のジャンパーを着た社員のうち、胴付長靴姿の八人が、河床部分に降り立ち、安全に配慮しながら作業を開始。川幅の狭いところは流れも速く、深みもあり、足元を手繰りながら水の中に手を入れ、川底や生い茂った雑草の間から空き缶、空きビン、ペットボトルなどを拾い集めた。また、不法投棄されたスキー靴や衣類も引き揚げ、河川内からごみを一掃した。

ほかの社員も敷地内の緑地帯を中心に清掃活動を行い、約三時間の作業で四十五㍑入り二十袋分のごみを処理し、地域の環境美化に貢献した。

同社は、今後も活動を続けていく予定。

業務１件の落札決定取り止めに

小樽建管

【小樽発】小樽建管は、七日に開札し落札者を決定した⑧番業務「倶知安ニセコ線防災安全Ｂ雪寒三者検討会」（八日付20面）を取り止めた。同日の開札を予定していた⑩番工事「倶知安ニセコ線防災安全Ｂ雪寒雪崩予防柵」が入札参加者辞退により中止となったため。